

凛々しく

2017/4/6 No. 1

研究全体会 I にあたって2年前、当時の勤務校に横須賀 薫先生（元附属小校長・宮城教育大学学長）をお迎えしてお話いただいたことを先生方に伝えたいと思いました。公開研究会で講演をしていただくにあたり、先生から事前に学校（子ども）を参観しておきたい、という申し出があり、その後、全職員を前にお話いただいた内容です。

（前略）

公開研究会でお話をさせていただくにあたって、一般的なことを話すつもりはありません。子どもを見て話を考えたい、と思いました。私の名前でどれくらい集まるかわかりませんが、お役にたてれば幸いです。

（中略）

今日は授業については全く何もありません。子どもを見に来ました。

（中略）

子どもたち、元気で開放的です。悪く言えば「デタラメ」（苦笑）。でもこれがいいんです。統制されてなくて安心しました。子どもが子どもらしさをもつこと、これが第一の条件です。〇〇という土地で生きて、団地の子も〇〇の子として子育ての中で融合していくこと、仲良く育っていくこと、この時学校の役割は大きいですね。

さてまず公開研究についてです。

残念ながら半分の子どもたちの公開ですね。私は公開研究会は全員の子どもをステージに上げるべきだと考えています。子どもってお客さんが来ると喜びますよね。子どもはだれかに見られること、楽しみにしてるんだと思います。

以前かかわっていた学校（校長先生3代にわたって）では、始めのころは全員が授業するなどしていたのですが、何かと都合をつけて半分の授業提案となっていったんですね。何とか知恵を絞って子どもが全員参加できる公開研究会にできないですかね。

だれのためにやるのか、ここが大切だと思うんですよ。先生方もそうですよね。他の学校の公開に行ったからといって大した学ぶことはないですよ。

子どもがその場に立つことで成長するんですよ。先生方は成長する歳ではないですよ。子どもは全力投球すると、顔つきが変わるんです。特定（選ばれた）の子でなく全員の子が参加する公開、工夫してみてください。

次に、子どもにはできるだけ新しい体験（言い換えれば大変な方に追い込むこと）が大切だと思うんです。子どもの中にはほっといても伸びる子も確かにいると思うんです。でも、冒険させ、経験させてこそ子どもは伸びるんですね。須江の子はステージを準備しておいて、ここで何かを獲得してそして伸びる子どもたちだと思います。だから教師は自覚的に追い込むことが大切だと思うんです。

そして授業です。

授業の質が本当に高まるのは教材研究が決め手です。

その日の授業は結果です。何を教えるのか考え抜くんです。子どもの前に提示する教材はある現象です。大切なのは何が本質なのかを見抜くことです。何が本質なのか、ということは、何が教えたことか、ということです。そのためには教材研究です。みんなでやるんです。アクティブラーニング等提唱されていますが、授業は教師が教えるんです。それは、子どもが本質までに辿りつく過程であり、教師が導いていくんです。（後略）

附属小の先生方はこのお話をどのように受け止めましたか。

（文責：副校長 手代木）